

a 学校教育目標	仲間とともに輝け三中 ～果敢に挑戦する生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 社会や世界状況に対応し、よりよい社会を創るために挑戦する生徒が育つ学校
----------	------------------------------	----------------------	---

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10 月	2 月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント		
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ			
確かな学力	◎主体的・対話的・深い学びの創造 ○豊かな表現力と協働性の育成	○個別最適な学びに向けた授業改善(選択肢と自己決定) ○批評的思考力や相手意識を持った表現力(パブリックスピーキング)向上	・選択肢と自己決定のある授業づくり ○振り返りの充実(R80) ○学習者用端末の積極的活用	・選択肢と自己決定の場(月1回以上) ・授業交流週間の実施 ・教育研究推進に係る校内研修実施	80%	100%	100%	125%	A	・学校生活の様々な場面で生徒自身が主体的に活動できるよう、授業や学校行事、部活動等の取り組みを行った。 ・全体、教科毎、学年毎の授業研究会は計画通り実施している。指導案作成、事前事後協議を通じて、授業改善に取り組んでいる。 ・教育研究推進について、教育研究部を中心に主体的・対話的・深い学びに係わる研修を計画的に実施している。	・授業や学校行事等において、選択肢と自己決定の場面を設定し、生徒に充実感や達成感、自己肯定感を持たせたい。 ・授業交流等を通して、生徒実態や学力課題を共有し、授業改善を図る。 ・主体的・対話的・深い学びに迫る授業研究を継続し授業改善に取り組んでいく。	○			・年間を通して計画的に授業研究をされ、授業改善が進んでいることが、授業の様子からわかります。 ・生徒の発達段階に応じた授業づくりがされていました。 ・授業での振り返りを大切にされることで、社会でも重要である「まとめる力」が身につについてきているのではないのでしょうか。	
			○第三中「授業づくり徹底5項目＋パブリックスピーキング」の実施 ○基礎学力を培う学力向上学習(GK)	生徒アンケート ①「授業がよくわかる」の質問に対する肯定的評価 ②「Chromebookを使った学習はよくわかる」 ③デイリーライフ記入(5行以上)	80%	85%	85%	106%	A	・第三中「授業づくり徹底5項目、パブリックスピーキング、振り返りの充実」について、全ての授業で実施することができている。 ・落ち着いて、授業に取り組む生徒の姿が多くみられるようになった。 ・授業や学校行事、部活動、課題やレポート、まとめ、振り返り、宿題を出す等、家庭学習においてもchromebookを使用する場面が増えた。	・授業づくり徹底5項目、パブリックスピーキング、振り返りの充実について全ての授業で継続する。 ・単元構成を工夫したり、毎時間の振り返りを行うことで、学習意欲の向上、学習内容の理解に繋げていく。 ・ICT支援員の授業支援、教員のICT研修参加によりICT活用方法の幅を広げ、授業改善に繋げる。 ・教員間や市の授業交流サイト等でchromebookの活用方法を共有化する。	○			・コミュニケーション力向上にむけて、授業や学校行事において、パブリックスピーキングを意識させれるっ取組を継続して下さい。 ・体力や運動能力の低下が心配されます。保健体育の授業を中心に継続した取組をして下さい。 ・主体的・対話的・深い学びについて、教師が行ったかだけでなく、生徒の振り返りやアンケート等の実態把握をふまえて研究を進めてください。	
					85%	89%	90%	106%	A							
					90%	89%	84%	93%	B							
豊かな心・健やかな体	○積極的な生徒指導の充実 ◎生徒指導提要に基づいた実践	○ピア・サポートによる親和性の高い集団づくり ○不登校の未然防止に向けた取組	○自主的・自立的な生徒会活動の推進 ・縦割り集団によるピア・サポート活動の充実 ・生徒が主体となる学校行事(三中チャレンジカップ等) ・「学校生活のきまり」を改善する等、主権者教育の促進 ○三中スタンダードの徹底及び質の向上 ・挨拶、返事、言葉遣い、無言掃除	・生徒アンケートにおいて「学校が楽しい」「友達と話し合い、考えを広めていける」 ・「学校生活のきまり」の見直しに係る生徒等を含めた協議	90% 85%	92% 83%	92% 85%	102% 100%	A A	・学校行事において、縦割り集団による学校行事を進めることで、異年齢交流を行い、ピア・サポート活動の充実に努めた。 ・三中スタンダードの徹底が図れるよう、学期に1回の身なり点検を行い、決まりの確認や三中スタンダードについての啓発を行った。 ・生徒会執行部が中心となり、学校生活における具体的課題について検討を進めている。 ・「学校生活のきまり」を見直すため、生徒アンケートの実施・集計・生徒会執行部での協議を行った。	・生徒が自ら立案できる「三中チャレンジカップ」を企画させる。 ・生徒の取組に目的や意義を持たせることで、成果の肯定的評価を継続する。 ・三中スタンダードの徹底を図るため、生徒会からの啓発活動を計画、実施する。 ・生徒会執行部の新旧交代時に、活動の理念や方針を継続し、自分達の主体的行動で学校生活を改善・発展させる。	○			・ピア・サポート活動について、実践と研究が生徒の活躍の場面を増やし、心の成長に繋がっているのだと思います。 ・学習発表会等の学校行事で、生徒が主体的に活動する場面が多くありました。 ・生徒の様子から男女間での仲の良さを感じました。生徒にとっても良い空気感だと思いました。 ・進路実現に向けてを意識した「学校生活のきまり」を見直すための協議を継続して下さい。	
			○不登校SSR推進校の取組 ・実施要項に基づいた組織的な実践 ・安心、安全な居場所づくり ・小中連携の充実 ・関係機関との協働的な連携実施	・不登校生徒支援会議の開催 ・不登校等児童生徒支援Coによる校区内小中連携	毎週 月1回	毎週実施 月1回実施	毎週実施 月1回実施	100% 100%	A A	・不登校等生徒が増加傾向であり、不登校の要因が多岐にわたっている。 ・個別の支援について担任、学年を中心に検討し、不登校等生徒支援会議において再協議することで支援方法の具体化を図った。 ・SSRやふれあい教室等関係機関との連携により、生徒個々の実態に則した生徒の居場所づくり、生徒・保護者支援に努めた。 ・支援Coによる毎月の校区内小学校訪問において、支援が必要な児童の情報共有を行い、中学校での支援に繋がった。	・毎週の不登校等生徒支援会議、月1回の教育相談委員会を実施し、情報共有と支援の具体化を継続する。 ・個別の支援において、生徒、保護者の想いに寄り添う支援を行う。 ・SSRやふれあい教室等で心の安定と個の成長に繋がる環境を整備し、個に応じた居場所づくりを進める。 ・支援Coによる校区内小学校訪問を継続し、小中間、教員間での児童理解の情報共有を行う。	○			・不登校等生徒の増加が心配され、原因についても多岐にわたっていると思います。個別の支援を継続して下さい。 ・SSRや三原ふれあい教室等の生徒の居場所づくり、生徒、保護者への支援、関係機関との連携を継続して下さい。 ・特別支援学級在籍生徒の割合が増えてきています。実態把握と支援Coによる小中連携を定期的に進めてください。	
信頼される学校	○開かれた学校づくりと教職員の資質向上	○教育活動の積極的な情報発信 ○法令を遵守した教育活動	○便りやHPを活用した学校教育の発信 ○すぐーるの積極的活用 ○服務研修の充実(人材育成に資する計画的な研修の実施)	・ホームページの更新 ・すぐーるによる発信 ・計画的な服務研修の実施	月1回 月3回 月1回	月1回 月3回以上 5/6回	月1回 月3回以上 10/10回	100% 100% 100%	A A A	・毎月HPに、学校だよりを定期掲載した。 ・学校だより、学年通信、行事案内、進路、学級、部活動等の連絡や案内をすぐーる配信で行った。 ・定期的服務研修実施は実施できていないが、定期試験週間や長期休業中に実施した。	・引き続き、学校だより等で行事予定・生徒の活動の様子をHPに掲載する。 ・メール配信【すぐーる】による学校だより等の情報発信を継続する。 ・不祥事防止に向けて行事等の日程を考慮し計画的に服務研修を実施する。	○				
働き方改革	○教育の質を高めるための環境づくり	○「指針」に基づいた学校の取組を推進	○定時退校日の完全実施 ○組織的・計画的な学校運営による効率化 ○生徒に向き合う時間の確保	・超過勤務月60時間以内 ・新たな業務改善	80% 学期1回	70% 学期1回以上実施	69% 学期1回以上実施	86% 100%	B A	・超過勤務60時間以内を目標に掲げ、毎週水曜日の定時退校の呼びかけを積極的に行うとともに、超過勤務の状況を職員で共有し業務の分担等を見直しを行った。 ・運動会、学習発表会等の行事実施内容について再検討を行い、プログラム等の精選を行った。	・毎週水曜日の定時退校日の実施を継続し、各分掌、学年、教科等の業務分担を行い、計画的業務遂行に努める。 ・働き方改革推進に向けて、計画的に業務を進められるよう、実施した行事の成果と課題を明確にし、次回行事に反映させる。	○			・来年度に向けて、定時退校日の実施や超過勤務の減少について改善をお願いします。 ・学校行事の実施内容について、先生方だけでなく生徒と共に検討を行うことも働き方改革に繋がると 생각합니다。	

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。